

開催地名	福井県越前市
開催日時	令和5年8月22日(火) 15:00～16:30
開催場所	市民プラザたけふ 多目的ホール
語り部	佐々木 守 (岩手県釜石市)
参加者	越前市職員 89名
開催経緯	近年の当市の組織状況として、職員の約半数が採10年未満であり、災害対応を経験した職員も少なくなっていることから、災害への危機意識の低下が危惧される場所である。本事業を活用して、災害対応を経験された行政職員から、課題や教訓、行政職員としての心構えをお聴きし、普段から考えておくべきことや、初動対応の重要性などについて考える機会とし、若手職員の防災意識の向上及び災害対応力の強化につなげる。
内容	<p>(1) はじめに</p> <p>平成23年3月11日の14時46分に三陸沖、深さ24キロメートルを震源とするマグニチュード9.0の地震による津波が、岩手県釜石市を襲った。(佐々木守氏は震災当時、釜石市の防災課長を務めていた。)釜石市全体で888名の死者、現在でも152名が未だ行方不明となっている。</p> <p>以前から津波が多い地域であったが、過去に、大津波警報が発令されても津波が到達しなかった経験や、震災前に防潮堤が完成したこともあり、「どうせ津波は来ないだろう」という意識を持つ人が多かった。その結果、多くの地域住民・高齢者が亡くなった。一方で、平時から避難訓練を繰り返してきた小中学生が、自分達の判断で1.5キロほど走って避難したことで助かったケースもあり、釜石の奇跡として、小・中学校の防災教育が注目を集めた。避難する意識醸成がされている子供たちは多くが助かったのである。</p> <p>(2) 3.11当日</p> <p>市議会参加中に震災を経験した。今までに経験したことない長く恐ろしい揺れだった。津波が来ると確信し、避難指示を出した。約30分で津波が到達し、木造の住宅はじめ市役所・消防・警察、全てが流された。周りも瓦礫の山で動けない、情報も全く入ってこないが、遺体は次々と上がってくる。このような状況下で、自主防災計画や地域防災計画を立てても実際は何の役にも立たなかった。</p> <p>船・養殖物も流され、水産業は成り立たなくなり、もちろんライフラインも停止した。釜石市には大きな湾が4つあるが、海に面した地域は全滅と大打撃を受けた。</p> <p>(3) 避難所運営について～防災計画にない想定外の連続と問題点～</p> <p>海側の避難所は全て流され、海側の住民をヘリコプターで内陸の避難所へ送った。担当部署など関係なく、別の地域の職員も含めて避難所運営を行った。職員の死亡、被災で人手がない。それでも災害関連死を出さないように尽力した。</p> <p>その中で、想定外の問題点が複数発生した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所において、名簿もなく、勝手に避難所から移動する人もいて、どの住民がいるのか把握出来ない。もちろん住民の生死も不明である。 ・寒い時期であり、暖房もなく、トイレもプライバシーもない。 ・物資の備蓄も十分ではない。

- ・様々な場所から届く支援の把握が出来ず、支援が届く所と届かない所が出てしまう。
- ・孤立した地域で独自に避難所が出来るが、本部で把握が出来なかった。
- ・避難所から仮設住宅へ移る際の公平性の問題。

そのうえで、感じたこと、反省として以下に記載する。

- ・防災計画のほとんどは昼間の想定になっているが、夜だったら避難所への避難も出来なかっただろう。
- ・トイレの重要性を強く認識した。我慢すると体調が悪くなり、災害関連死につながることもある。
- ・計画を作成したのは男性中心であったため、着替え、授乳、トイレなど女性目線が足りなかった。
- ・障害者や高齢者、ペット連れなど避難所を希望しない在宅避難者も多かった。
- ・遺体安置所の数が増える一方で、遺体の身元もわからない状態のままどうしたらよいか。

災害時には、想定された防災計画通りにはいかないものであり、そのうえ計画にない想定外のことが次々と起きることを覚悟する必要がある。

(4) 教訓

何より人の命を守ることが大切であり、災害によって人が亡くならないように対策をするべきである。人間は「自分は被害に遭わない」と考える傾向があるので、何よりも住民の意識を変えていくことが必要だ。そのためにも子供への防災教育をしっかりと行えば、彼らが大人になった際に自身の子供にも伝えることで避難する文化が生まれ、住民の意識改革へとつながるであろう。

最近温暖化などの影響で、以前と比べて災害に合うリスクはどこであっても高い。防災教育の取組みを続けていくことで、危機に強い人間、緊急時に判断出来るリーダーが育成されることが望ましい。

そのほか、他市町村や消防・民間団体等との広域での連携、災害弱者対応への取組み等も必要である。

また今後の対策に生かすために、災害時の記録を残すことも重要だ。記録がないと改善することが出来ない。



開催地より

主に避難所運営を担当することとなる職員を対象に、実際の避難所運営の状況や課題等についてもお話を伺うことができ、住民の生命と財産を守るという行政職員の使命について改めて職員一人一人が考える貴重な機会となった。